

パニーズ Paropanisē の南方であつて、決して北方でない事は疑ふ可き餘地があるまい。而してギリシアバクトリア人であつたギリシア人が、眞にインドギリシア人となつたのは、ギリシア人が、バクトリアを棄てて、印度移住に退かねばならなかつた時であり、彼等が殊に富み、長く榮えた一佛教々團と混和する時と機會とを得て、其の取引が美術の新派を産むに至らしめたのは犍陀羅であり、已に述べた如く、此の流派は印度的思想が、西洋の技術と最も緊密に結んでゐるのである。

上來三點の考究を試みたが其の結果は、其の間に相通ずる所があり、之等を概括して次の様に結論する事を得る。佛像の印度ギリシア様式は犍陀羅——恐く一層嚴密には、プシュカラヴァティー Pushkaravati (プケラオテイス Penkelao-⁵¹) の町で、西暦の始より稍早く、歐亞人、少くとも、極めてアジア化したギリシア人の手で生れたといふ事になる。而して、其の創意と呼び、又、之が全佛教アジアに驚くべき成功を収めた祕密とも稱するものが宿つてゐるの